

0922
21
3 1/2

橫濱開港見聞誌

下

0922
21
3 1/2

1922
21
1



柱時計の晩鐘ふ胸きうらむ開かろく積むびたる金巾の綾る色も
 白妙の暮雪をつる入船はめで度港の懸る心の晴嵐と港崎町の
 居るけいふつり滞る夜の兩座敷ふくらむる錢の月よかほみも横
 文字中ふうのら印南京さん手作のつる糖やら雁のまよも
 ろるぬ大交易四方の暉夕日景錦ふらぬ硝子障子見渡は異客の
 大船がどりと響りぬ大筒みつる乗出は洋の方帰帆も引や
 海道を空みけむりの一文字ハ蒸気船の目印ふ千里を重る万
 里の波上追風うらぬ早走りハ後の荷物で利益の為古卿へ飾る
 錦繪本あまの土産と船出する商賣みえがとある何国人も同支み
 別の異人ともう言ふ及ばぬ

慶應元丑夏



玉蘭齋老父識



横浜国立大学附属図書館

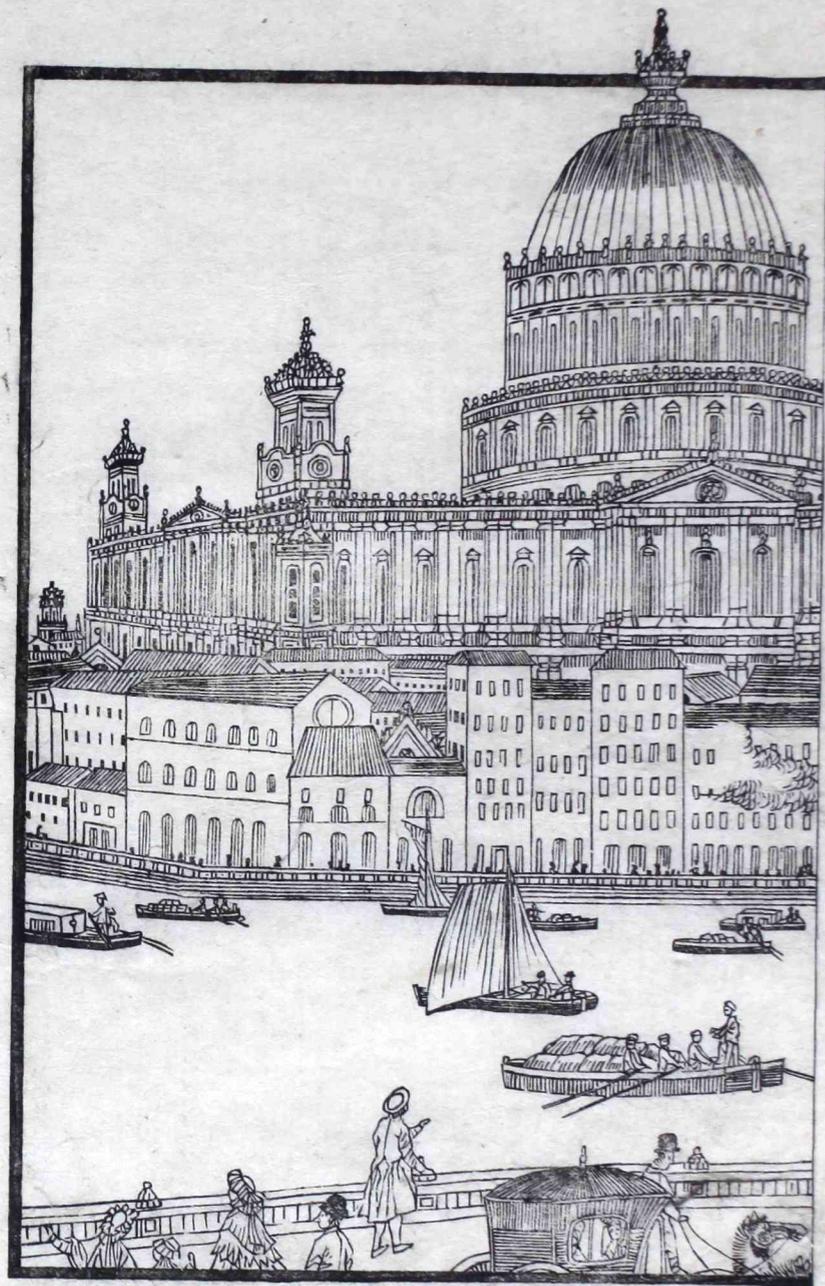


06582991



横濱渡来
 英吉利國
 王城城郭
 ロンドン川之
 圖
 此圖者英國之
 銅版有處見
 是模寫以今
 冊中出ス

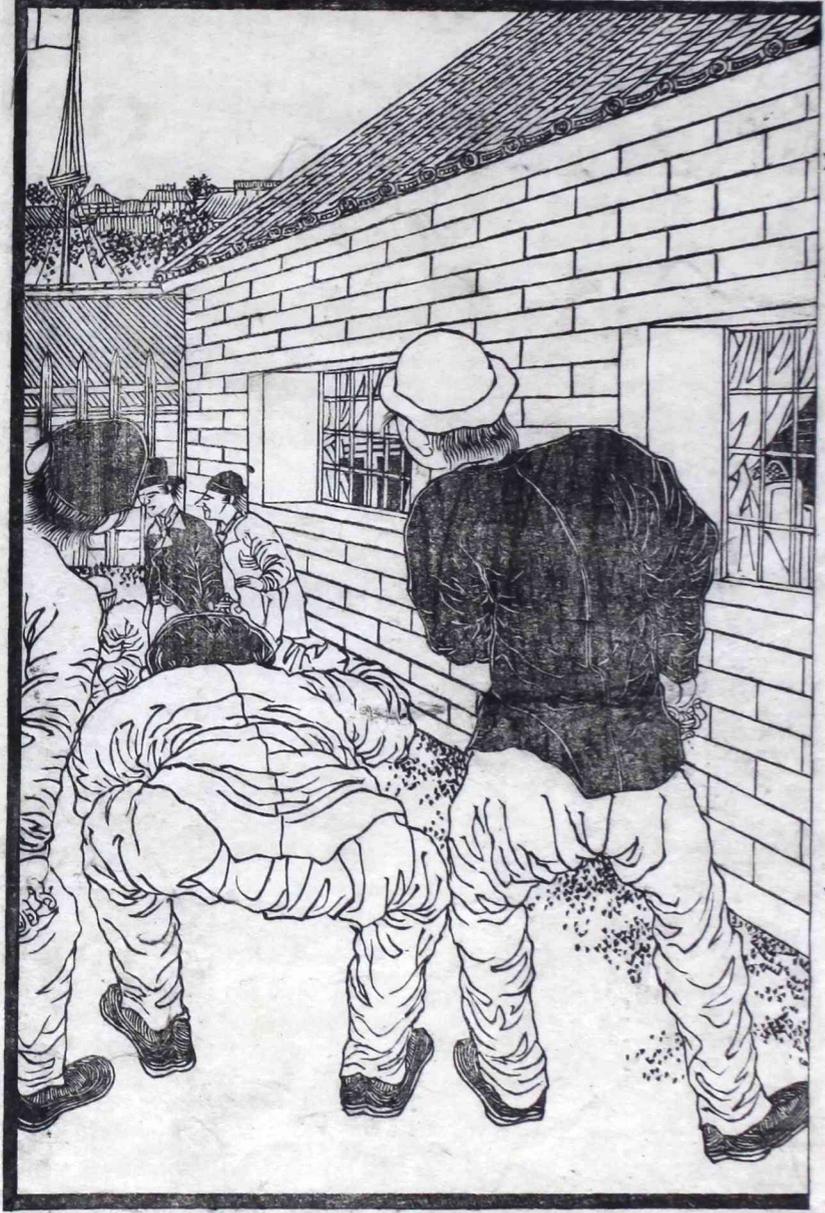
倫敦河渡
大橋數所
有紙面徒
一橋畫其
余畧



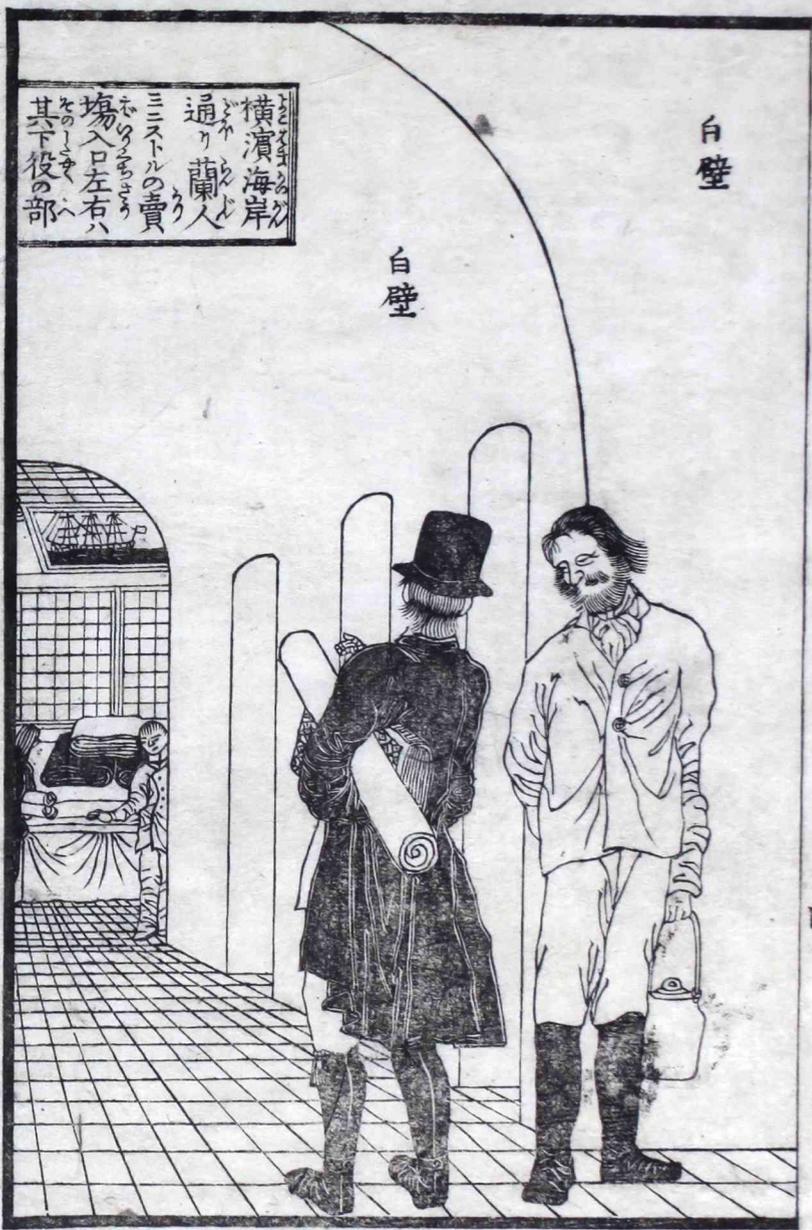
橫濱六



とらづぬくの
此圖ハ異客之
とらまきびあ
子供又ハ下人
の所作まり
多まの圖
玉當の圖



白壁



白壁

屋身入口
六つ有ハ又
此次の図を
以て内見

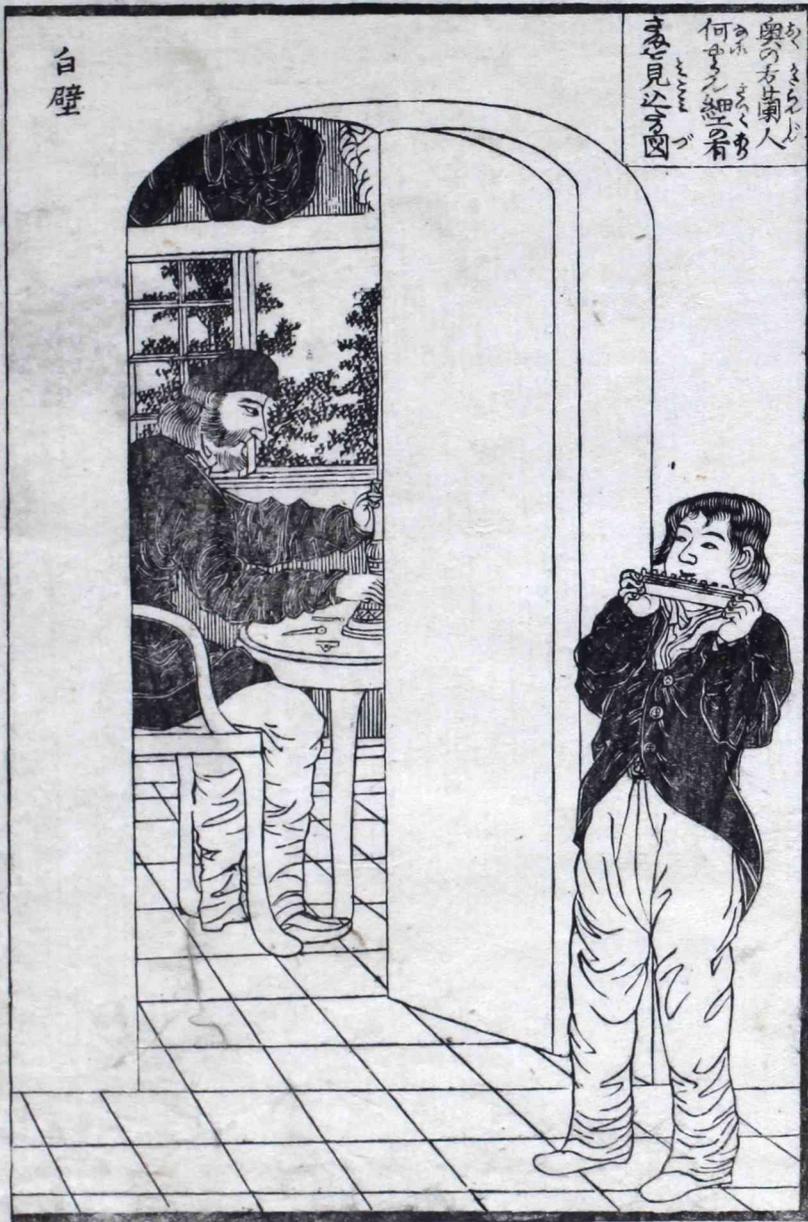
白壁

白壁

阿蘭陀婦人



白壁



奥の方南人
 何ぞ之細看
 喜見公之圖

黄四頁六

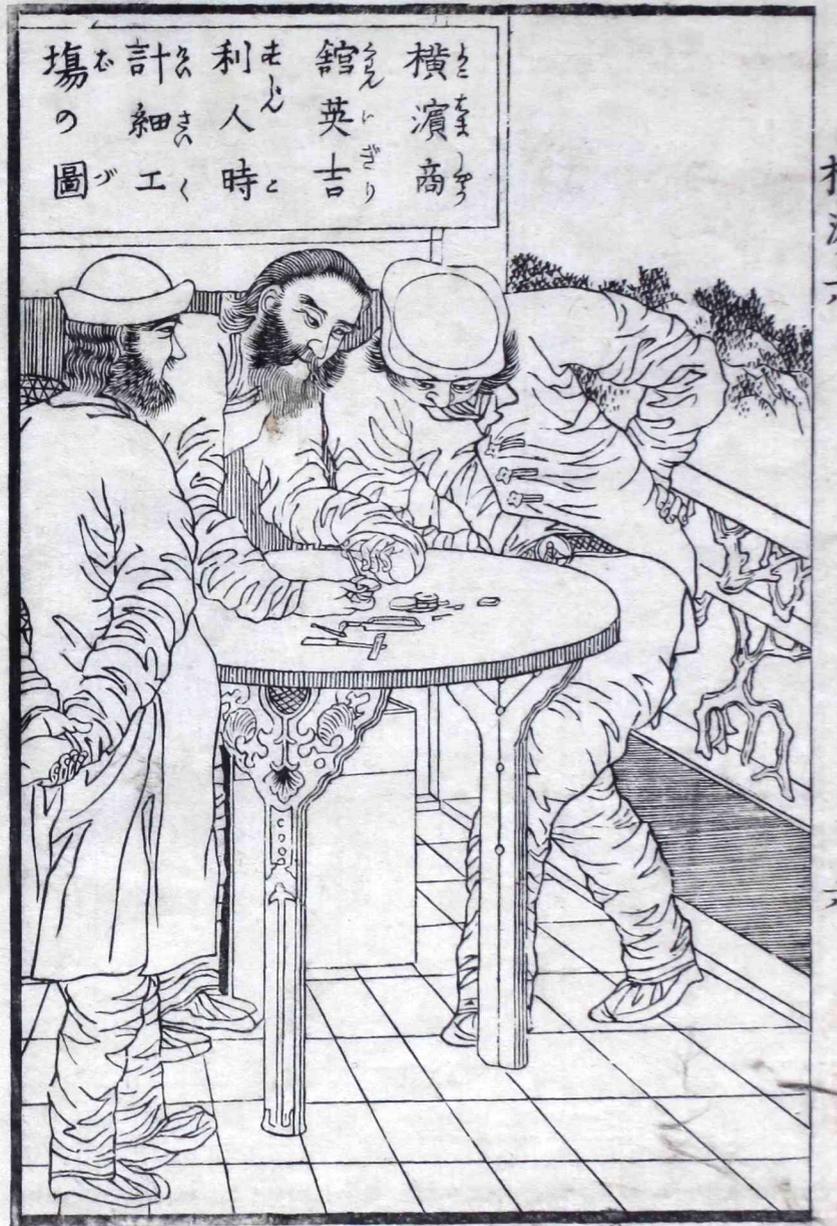
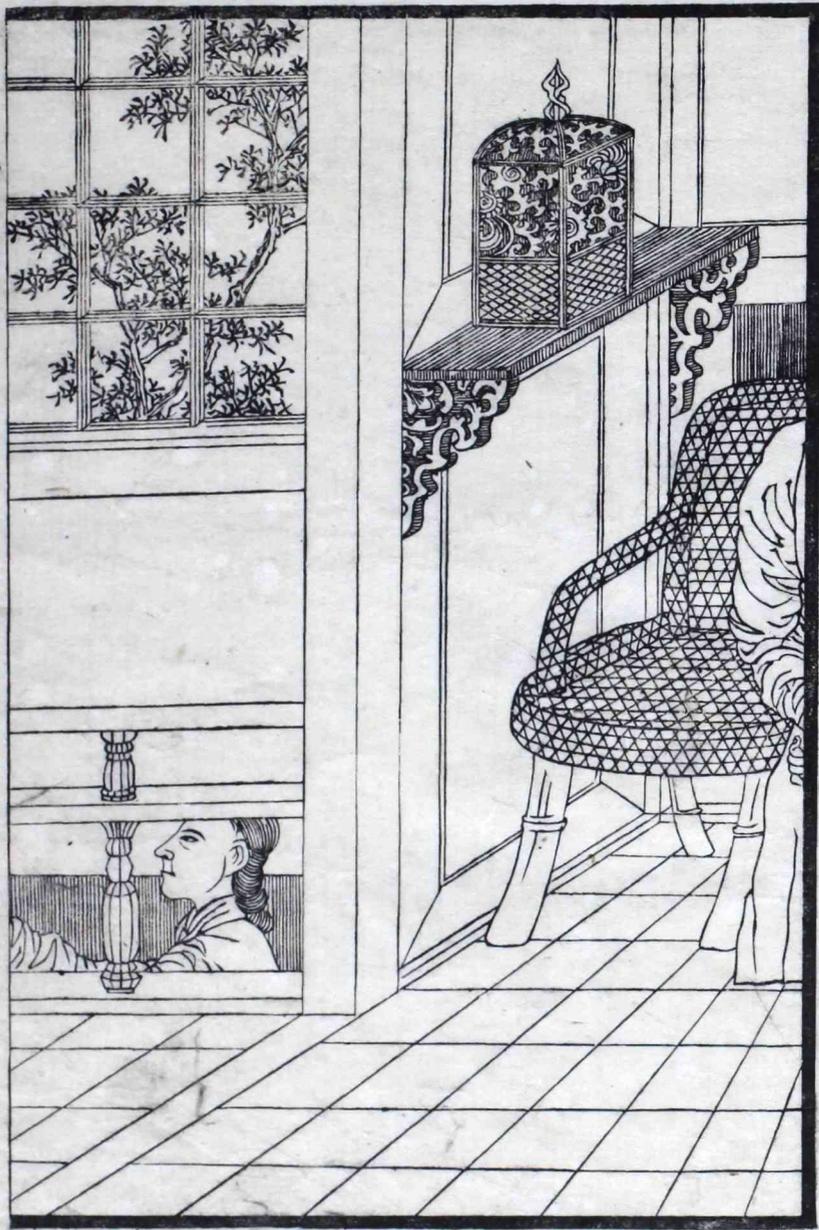
白壁



支とと
 前み見る処の
 右側其部屋
 二商ハツ不有

横濱六

五

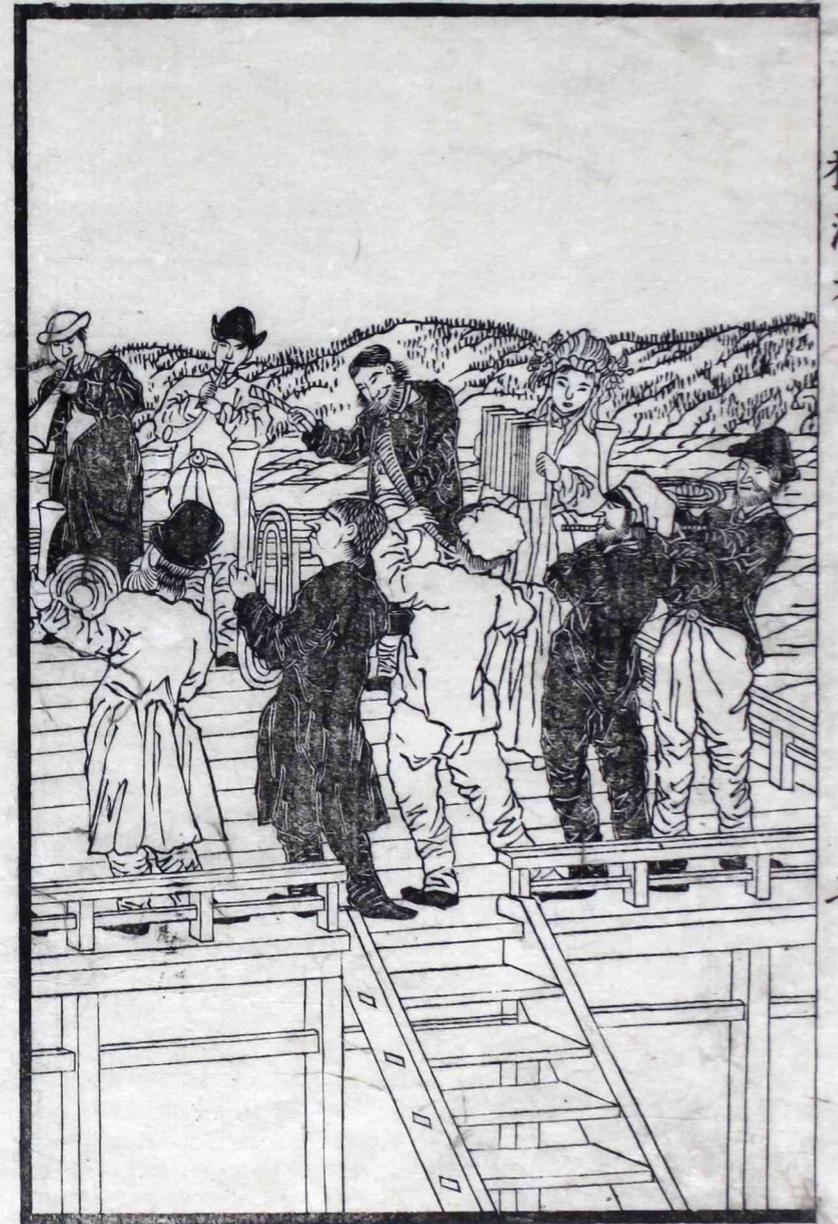


横濱商館

英吉利

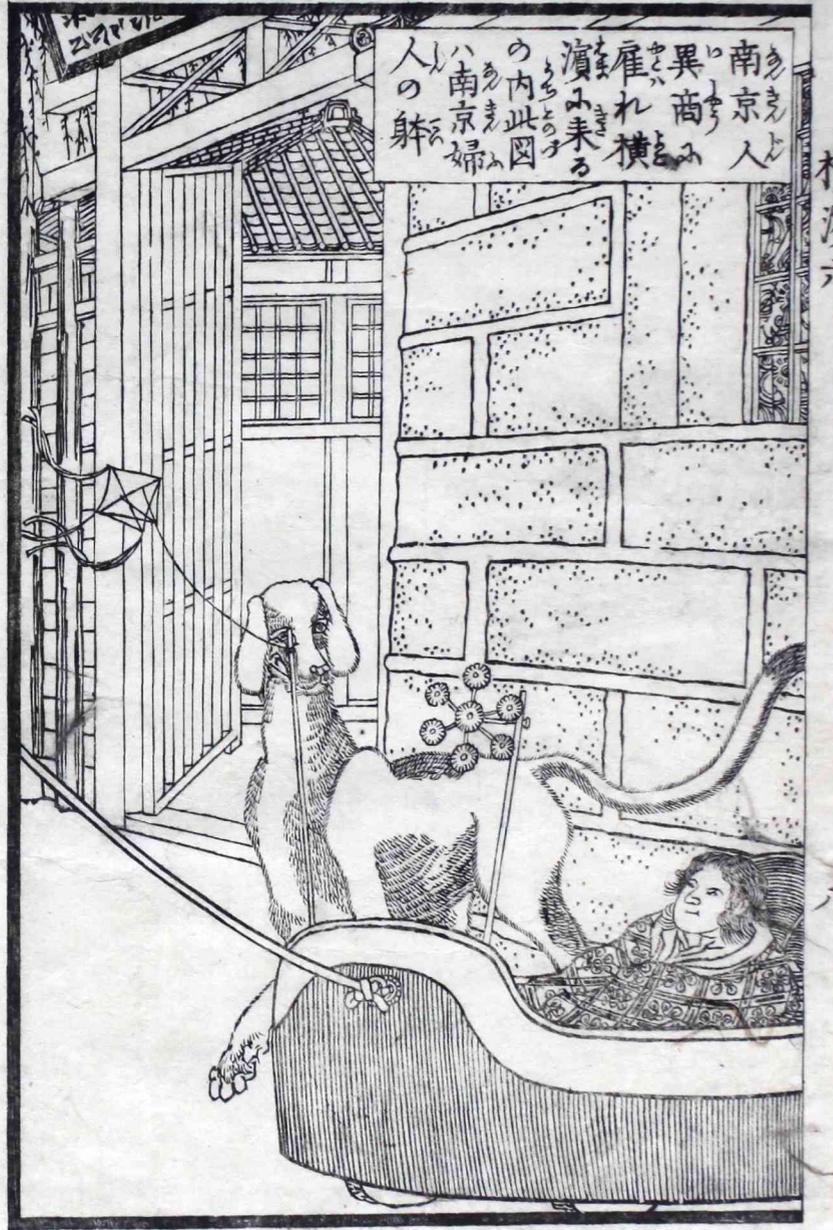


横濱老亞
 墨利加人休日
 諸箇持出
 高堂み上り
 九つふら立
 て是を映多し
 方々と廻り
 遊ぶの図



横濱老亞
 諸箇持出

七



南京人
 異商
 雇れ
 横濱
 演み
 の内
 此
 八
 南京
 婦
 人の
 躰

阿蘭陀人の居酒見の世を共賣者吾國の人なり其弟の圖



阿蘭陀



阿蘭陀

六

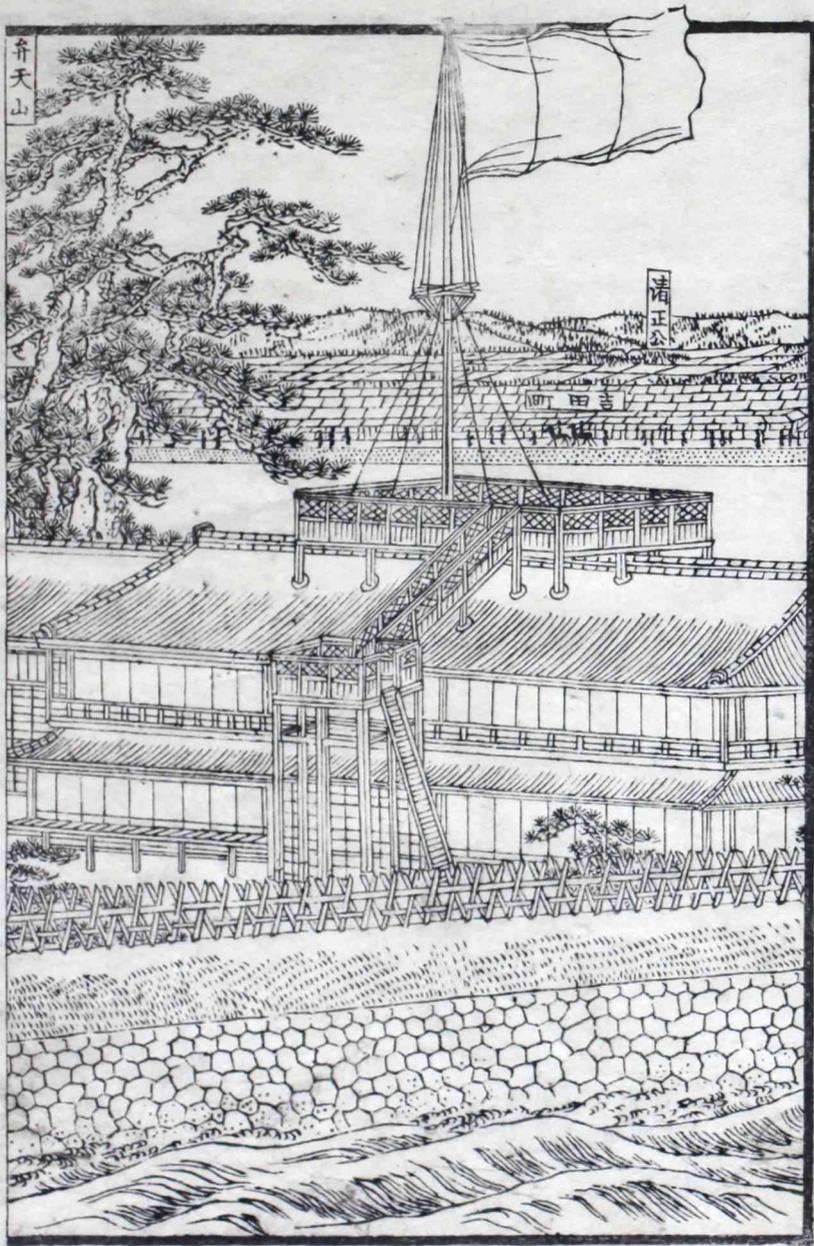


精清二



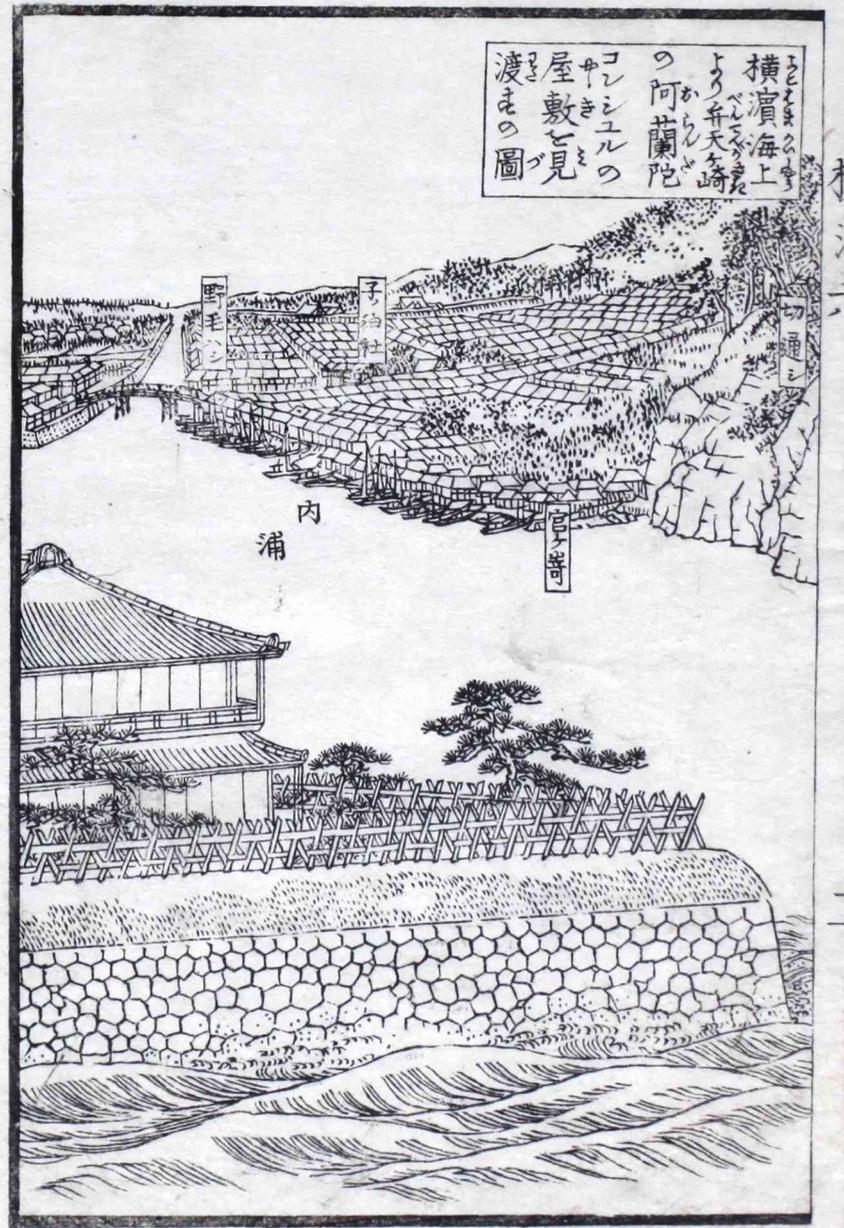
其第二函賣
方異人小定
書をもちま
異人はあ
恐ろの圖

黄濱一



黄瀬川

十一



木ノ



舞臺

七



南天竺
 印度亞王
 同婦人是
 横濱と見
 る如の石版
 多の写

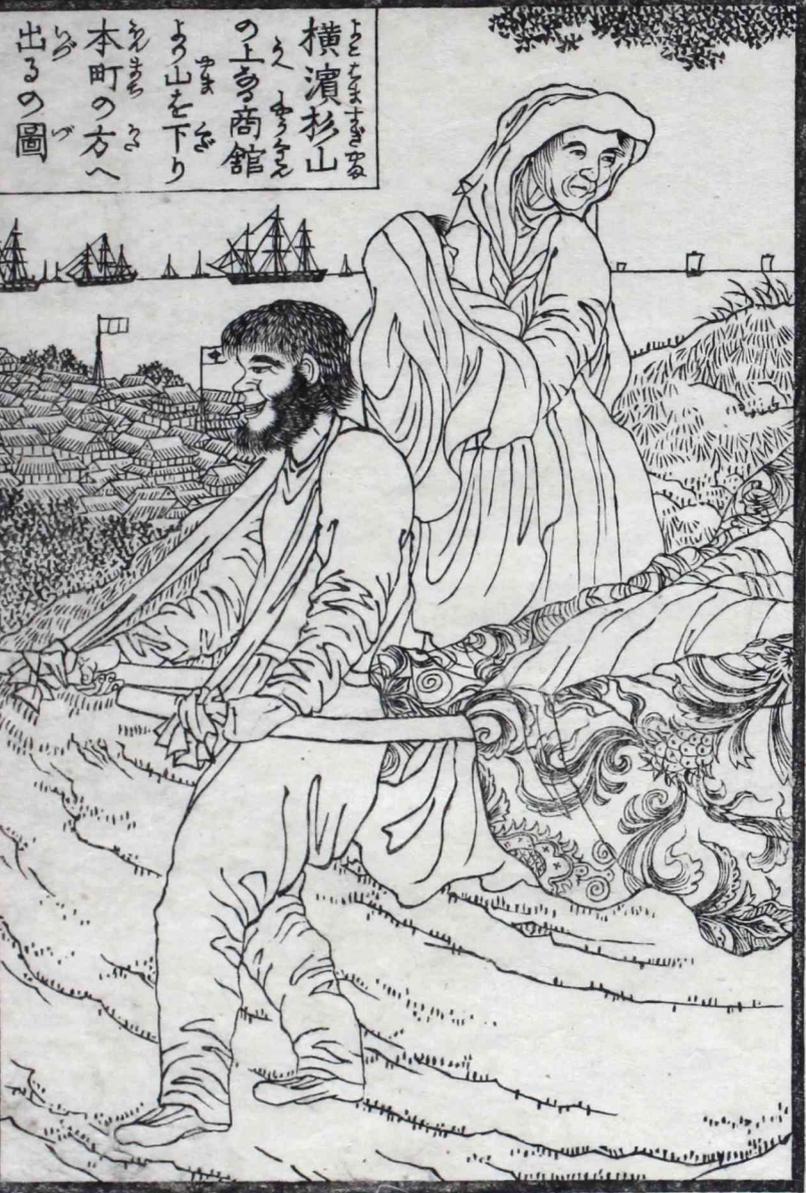
横濱



黄寶六



木



黄寶ノ

十五



黄寶ノ

十五

南天竺印帝
亞王象の上
日光に
行の図銅板
繪見る処



五大州の内歐羅巴その一分英吉利期の国王城下ロンドンの図ハ英吉利期
みく製処の銅版を模写して此卷中みゆま又横濱異客の下男或ハ船子
まど休日ハ商館の間廣ささるふ會王打又ハ王當ふハ工をさるふ吾国の
子供ささるふ打ち打ふ同一其十人ある一人大ハ勝ハ此場と立去んとされふ中
是をささるふまは是をささるふ此場とさるふ時ハ勝る物の内ハ三分の二ツ程
つるま其処ハもを逃んとさるふをささるふ大勢組付てそのあつさる道とさく
見ゆる大ハみゆまは是をささるふやあつさるふ海岸通りの商館ハ阿蘭陀人其名三ニストル
館内ハ賣場と初めみゆま其家作と見ゆる木作りさるふ由阿蘭陀の風ハ
其入口ハ大障子二枚とさる五色の硝子とりのハ張是をささる向奥の方へ行其形
火燈口ハ天井をささるに従ひ丸く作り其左右ハ又二ツツの火燈口ありまて白壁の
まど塗さるふ其左右の口内ハ若き男女あつて何せん手仕支をいどさるふ
いよみ腰の上着とゆき下着ハ白金巾の筒袖ハ腰みまどゆきまど白巾

頭ハ冠物とぬき茶をろる毛とむき付て針仕支りきて其とろハ男めく
黒仕立のまろい是迄巻中ふ多く画ると同ト何や金物のまろきを其室の
上ふおき一心おん細工のて此内と多ると同トろる入ロツ下せのと見ゆる其
奥の行當りぬ賣場あり其品数多き中ぬ美支み見ゆるハ大なる萬國
の図又ハ美女の油繪金巾へまろる微妙の地絨萬國の図ありて阿蘭陀
ハ其國産最上品の製多く横濱せも蘭物と以て上とまろるまろる異人
町中程より本村橋の行間廣大の新地ぬ異商館立つき中ぬ英吉利の
時計細工人あり此人腰時計の名人との其ありきを写し出せ此項阿蘭陀の
人居酒見世とせとめくを見ゆる画さるて有さるる其表の方より一人来て
茶碗ぬ指さして酒をつぎとら仕方あり此見世の賣人ハ日本人ぬ蘭人ぬとの
まろ此見世の萬支をろみありと見へ正面三四段のまろを作りびと並
あり賣人ハ此棚ぬ指さて見ゆるぬ一番上の方指さる賣人ハ其まろのいん

取出て前ふぬ筒茶をぬみ異人心ろび多類つたせと吞つて二三盃
のまろゲイブを言あう筒袖の胸ぬ俗ぬりしとまろるまろるまろるまろる
二枚日本一分ツ出せ賣て是を見て指さし天保二枚ぬを多く出せとのぬ異
人ハ何と多くぬとひよつさあう天保二枚ぬと出せると賣人ハ異人
の胸ぬとまろつとつとあはれ見るとぬ身ぬぬぬ板ぬ西洋文字ぬ
書さるぬ付て片手ぬ指さし見せバ此時異人ハ大ぬ腹さるぬぬぬぬぬぬ
書付ぬ指さし見せるとぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
出しぬ二枚を渡しぬと三枚ぬ其酒を火一つぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬ角ぬ上の棚ぬぬぬぬ一番下の方より黒多ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
吞んとし口元へ付てぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
さぬぬぬ
のぬぬぬ

平気多此異人呑を多しつてさへ外多同国の異人入来り片手み茶
 見片手此人を多し此酒を呑ふまらうと心もちを多し口のなみか行
 時来り一異人ハロとむむらんがうと言ふ私ハ其様多し酒を呑まは是
 逃さしとつた逃のんともあま酔ハとの時茶の酒を多し呑と茶を
 臺の上み置来り異人とあひ船子が多し奥のちり出来り外へかんとさ
 じろあまのろ組付れ共此船子つた男史せあのみ引く行との異人ハ
 酒を多く呑とあま看と何さとも喰とあひ深く呑と時つてくを
 上りあつた一かこの有時ハ酒を吐と入先年長奇の蘭面の玉版を見
 酒盛の圖の内一人酒をたらるあつた此酒屋あつた異人二人あ手とひき足版
 上て何やえんらむて踊りさびかあて一人のあつた有ま又一人もかせんぬゆうま
 めくろくきさうくとあまをいと多し賣人の外三人日本男あつた二人を多し
 又かの書付とびはしとせその修表へつたあま何とも言ひ行多此見せ来り酒

横濱
 十一

香者ハ上官ハまきみで中より下官み至ると見ゆほど酒ハ極高ねえの品あり
 との上段ハ筒茶見ゆ一金の二一分二朱が中段ハ三分一朱が下段ハ
 下直つて有とあま由異人ハ高直段の酒を見内み三五五の香のあり
 上酒といふ其色あつたあつてきけ有て甘くあまき由あり是ハ中通りのあり
 下酒ハ真黒色みでかくあづく水け有元来木の皮よりあつたあり
 との人はを亞弗利加の俗ハ云黒人此酒を呑と数とあつたありとあり
 直さるをさうくと速あり又阿蘭陀佛蘭西此州の人能日本酒を好む呑と
 多し南京人元来米と喰て生長するに吾日本みうるに酒ハ至て由地國
 せうらうと香むと少く日本酒を好む呑其外ハ凡日本酒を呑ともと異
 人云日本酒ハ熱身みきくと甚どつたあひ由又いふ酒多りと云横濱の
 きさるまらふ記多横濱の茶屋女小娘みぞ用支那の此見せ来
 る後異人ハあつて知る人と見へ自分香さの酒を出ると香さみ平気みり

横濱
 十一

あまのくいと香の甘くて香や又夢中か香や知ま先みりへて木皮を挽て
る工を振りとまう都て肉桂をひき唐桃をひき椰子の実とまきり蒲萄
を用ひ此方の最上酒の内多りさば酔て踊る程のこ有まくと思へとも
焼酎を合まゆみ酔を合まると見ゆ又休日異人数十人ありまると二間
あとの臺より種々かろうさ笛と持出た九くあひ居り中て廻りまるとその
笛とあまを何と名付さやと聞まは是西里利加めり外音楽多
と横濱の人を入り又其国の銅版或石版を見ゆ石を置上りしと見ゆ
九き臺の上へ此ありまると見る又海岸通りて南京婦人が異人の小児と
車ひ入る前の所へ南京のつらつ日本の風車とて長き紐を引や頭上の
毛色は吾日本も異工とて三ツ四ツ此如く結ぶ下へ白巾とまとい両足まて
長く白のたろの如くゆき其上唐もまると花色もると
此如く筒袖
を用ひ手足の小き工子供の大ききやを見まるとまといも南京北京まて唐国

横濱

廿六

の風俗は白巾を以て小児の時より手足をまね縮むるとありと万一手足大
ま男是をきらふと其まは実の横濱へと思へま廣東福建の地はるま
うと思ふ此横濱の諸州の異人渡来を又来らむと銅版石版の画あり
み外国会を見まふも南天竺印帝亞王近国ふまのありて此国みま
向ま一太い戦ひ勝てその国を切まふ本國に帰陣あり是を王の婦人きま
へく其支度をまは廣野みまはまらひまらひのやうな物を持きて王乃
近く来る時名水のあやまて此井古聖人ありて此井をまら王み吞まふ王立るまらみ是を
吞て城み入るまを臣下の婦人吾つまの来るまらち又前の如くは是を帰陣の
祝ひを常の日も此水を吞バ祝事み用とふ此繪西洋人の石版其傳は右の如く
と横濱の人が異人みまなるま我みまは南方の印度ありて地のつまきまら
先年長崎の銅版の鞆鞆の婦人の姿を見まら其髪毛を頭上より
左右みらると三方み長く下るハ鞆鞆國の印度の姿をまらひらう天竺の昔

横濱

廿七

より長く其女美ありと佛像の觀音勢至の尊躰を以てりちちありありの
不夜印帝亞婦人の髪毛とあり左右下は輪の如く先の方を頭上よりさるも
土の妻らまはくさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
と見るふ五色の花さつひく美妻ふかき古昔觀音勢至も如此ありん
と思へ此印度を極樂國と真妻六多の國と思つ然も此板圖の極精
色あるが面色白く美あり黒色あり有む今横濱の印度人最下民といふさ
るる上官の白く美あり下民の黒色ありありありありありありありあり
横濱のさるさる有る面色さるさるあり亞弗利加人程ありあふる色少
るくさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
ハ極熱國也小黒色あり生さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
されば博学の傳をまら然るふ此黒色の人あり日本海邊の人むさるさ
げと云ふ程さるさる色あり白まハ眼中と笑へ其齒このニッあさるさる

横濱

十一

十一

黒人うと思つと云人あはる日本の人ハ血氣つて生さるさる小其色赤色あり
さるさる海邊の人其色黒きさるさる夏月日光のさるさるさる血氣
まらさるさるさる時ハ黒く見ゆる實赤黒きあり此人海邊をさると住居
さるさるたさるさる黄白ありと思つ印度國共小亞弗利加國の黒人の
さるさる墨を水ふさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる
といふも其色化さるとみ一大象鼻の力にて大樹をさるといふとさる
より云傳さるとさるさる小鼻のさるさる横濱あり今銅版の圖を是を見る
と成得さる付て其支をさる小大象廣野小をさる時向ふより獅子ありん
のいろをさる飛來る此獅子山中の牛を見出し喰んとさる牛ありん
へう助行獅子ありんさるさる尋ねて此原ふさる見ゆる小大象あり先の牛ハ此
象喰ひさと思ひてありけさる来りて齒をさるさるさるさるさるさるさる
小向ハ戦ひ或ハ三日三夜又ハ五日物喰ふさるさるさるさるさるさるさる
獅子ありん山へさる

横濱

十一

象ハ獅子の引と何とのよりヤ砂をけをくうあり呼ら獅子の之
 山近く行て出て来ると心や牙をのりく大木の根を引わぐと
 鼻の先をのり根の間へ入し引あ高くをあがると其有様
 銅版繪のき此卷中みあさる此時象ハ合千の獅子来らば是非引
 入を其あふ牙を折らわたり有て此野の土人ハ遠く
 のうげみ忍び居る獅子象もみ引るあえ出てを争く得るのいま
 交易の場み持の心大なる利を得るのありと元来此象ハ自極身
 鍵を打て引あくと常のよりひゆくなと獅子とあを海中の猛畜
 辱と戦ひ一用をつた折る度肉をとりと有ると何ともめいさる
 常のよりぬきものありと聞きあるまありさる印度ゆくこの象を
 りのり能軍用とて鉄炮もとらるると國王常み直み金銀珠玉の
 ふうて用ひ其上み乗て道行まときその図を写しとせよ

横国藝 第517號
 横濱分校 昭和 20 年

横浜国立大学附属図書館



06582991